



TITLE:

はじめに

AUTHOR(S):

芦名, 定道

CITATION:

芦名, 定道. はじめに. 近代/ポスト近代とキリスト教 2012, 2011: 1-1

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/155081>

RIGHT:

はじめに

芦名定道

この研究報告論集『近代/ポスト近代とキリスト教』は、2011年度の「近代/ポスト近代とキリスト教」研究会の研究成果を収録したものであるが、刊行費用は、芦名定道を研究代表とする科学研究補助金（平成23年度・基盤研究（C）「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」）から支出された。はじめに、この点について、その経緯を説明しておきたい。

「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」（課題番号 22520061）は次のような目的を掲げて企画された。すなわち、「現代の思想的状況において、キリスト教思想はきわめて多様な展開を示している。本研究は、こうした動向を視野に入れつつ、社会科学（とくに、経済学と政治学）との関連で自然神学を再構築することを目的とする。自然神学は、古代以来、それぞれの時代における知的状況に即応しつつ、キリスト教思想と他の諸思想（諸科学）との創造的な関わり合いのために必要な理論的基盤の構築を担ってきた。本研究は、この自然神学の営みを現代の思想状況において継続的に発展させるとともに、環境と経済をめぐる現代の深刻な危機的状況に対して、宗教・キリスト教が蓄積してきた伝統的な知恵を、有意義な仕方で再提示することを意図している。」（応募書類より）

平成23年度科学研究費補助金交付申請書では、「本年度の研究実施計画」に、「近代/ポスト近代とキリスト教」研究会との関わりが明記されており、これが、科学研究補助金から本研究報告論集の刊行費用を支出する根拠となる。

「3．国内における共同研究：研究代表者が所属する国内の研究会や学会などにおいて、本研究計画に関連した諸問題に関する討論を積極的に実施し、文献収集とその読解に基づく研究を補完する。具体的には、本研究の研究代表者が代表者となっている、現代キリスト教思想研究会（「アジアと宗教的多元性」研究会、「近代/ポスト近代とキリスト教」研究会）が、研究討論の場として考えられる。」

以上の経緯より、この研究報告論集は、研究会の研究成果であるとともに、研究課題「社会科学との関連におけるキリスト教自然神学の再構築 環境論と経済学を焦点として」の研究成果中間報告書として位置づけられることになる。

なお、本研究報告論集の刊行費用は、発行日との関わりで、平成24年度の交付金から支出される。

<付記>

本研究会は、「近代/ポスト近代」の歴史的状況におけるキリスト教というテーマについて、これまで5年間にわたり、共同研究を行ってきた。本論集「近代/ポスト近代とキリスト教」は、2011年度の研究成果報告書である。本研究会については、当初より、5年間の活動という期限を設定してきたが、予定通り、2011年度で研究会としての活動を終了したい。共同研究の場は次に移る。5年間、本研究会のためにご協力いただいた方々にお礼を申し上げる共に、各自のいっそうの研究の発展に期待したい。

本研究会に関わってこられた、二つのメンバー（今出敏彦と小柳敦史の両氏）が、この4月より新しい地に赴任し、研究・教育に携わるようになった。おめでとうございます。